

防災意識とともに、 人権意識を高めよう！

東日本大震災の時には、次のような事例も起こっています。

女性に対する人権侵害

避難所では、妊産婦への配慮が行き届かず、乳幼児の授乳スペースや育児スペースが確保されにくかったり、乳幼児の夜泣きが原因で避難所に居づらくなってしまう場合があります。

また、避難所生活の中で、女性に対する暴力や性的いやがらせが発生しています。

子どもに対する人権侵害

避難所の中で、ストレスによる大人たちのいざこざを見て、心に傷を残してしまうケースや、避難所生活のストレスから子どもに対する暴力が発生したケースもあります。

災害時という非日常の中では、被災者・支援者などの立場に関係なく、そのストレスの矛先が周囲の人に向かってしまい、誰もが簡単に被害者にも加害者にもなってしまいます。知らず知らずのうちに誰かを傷つけていたり、家族や大切な人が嫌な思いをしてしまうかもしれません。

被害者にも 加害者にもならないために

災害時には、多くの人が傷つき、困難を感じ、たくさんのストレスを感じるため、周りを顧みる余裕がなくなってしまうかもしれません。また、一部の人が何かを我慢している状況が生まれるかもしれません。そういう中でも、お互いを少しでも思いやり、共感し合い、優しさを持って災害を乗り越えていくために、私たちは、日頃から周りの人に対する思いやりの心を大切にしていきたいものです。

「災害」と「人権」は切り離すことはできません。人権意識を高めることも、「災害への備え」の一つといえるのではないのでしょうか。

日頃できてないことは、とっさにはできんがよ。
だからこそ、みんなが嫌な思いをせんように、人権も防災も、日頃からの心がけがすごく大事ながで！



災害と人権

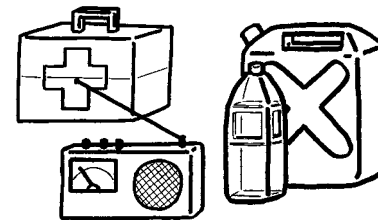
最近、市民の皆さんの防災意識はますます高まり、地域でもさまざまな取り組みをされていると思います。南国市でも、津波避難タワーの建設や備蓄品の整備など、防災や減災、また復興期を見据えた取り組みが進められています。

災害といえば、地震災害や、台風などによる風水害などさまざまですが、こうした災害時には、周囲の人との助け合いや、お互いへの思いやりが重要となります。

しかし、非常時にお互いの人権を尊重していくためには、たくさんの課題があるといわれています。

子育て家庭への配慮の欠如 プライバシーの問題

災害弱者の避難



災害時の人権課題って
どんなことがあるがや
ろう？他にも、嫌な思
いをしてしまうことが
あるかもしれんき！



なんこく防災くん

風評被害やデマ

避難所ストレスによる対人トラブル

災害時に配慮が必要な方

災害が起こった時には、さまざまな場面で支援が必要な方がおり、他の人より多くの困難に苦しみ場合があるといわれています。

例えば…

- 子どもや高齢者、また体の不自由な方などには、避難の段階から支援が必要となる場合があります。
- 避難所のトイレ(和式)が不便だったり、少しの段差でもストレスになる場合があります。
- 視聴覚障害のある方や外国人の方にとって、避難所でさまざまな情報を得ることが困難な場合があります。

他にも、さまざまな場面が考えられます。皆さんの身近なところに、災害時に配慮や支援が必要な方はいないか、また、どのような配慮や支援が必要か、日頃から考えておくことも大切なことかもしれません。

※人権特集は、人権週間（12月4日～10日）にちなんで、毎年12月号に掲載しています。

■問い合わせ／人権啓発広報委員会 ☎ 880-6569